

スマートビジョンのための AI 技術応用協同研究委員会
設置趣意書

知覚情報技術委員会

1. 目的

ビジョン技術は、市場の新たな開拓や形成が期待されて、その応用分野の多様化が進み、さらに各分野において社会への浸透化も進んできたが、課題も見つかってきた。本委員会では、ビジョン技術の社会への浸透化の方策について検討したスマートビジョンの社会浸透化協同研究委員会の成果を引き継ぎ、スマートビジョンの社会への浸透化を阻む課題を解決するために、現在、目覚ましい進化を遂げている AI 技術のスマートビジョンへの応用方法を中心に協同研究を行う。

2. 背景および内外機関における研究活動

ビジョン技術は、防犯・防災用や ITS (Intelligent Transport Systems)、医療、福祉などを始め多様な分野で実用化されるようになった。しかし一方では、実利用の拡大とともに、問題点および課題が明らかになってきた。その中でも特に、対象のモデル化や多様性への対応が不十分であることに対する指摘は、画像応用システムの信頼を損ねかねない重要な問題である。またこれは、開発に携わる画像処理技術者によっては深刻な現実問題である。これに関して、適切な解決法は現在のところ提案されておらず、目的別あるいはシステム別に対応が行われている。実際には、背景シーンまたは対象に対しあるいはそれら両方に対し制約条件を設けることにより技術的に不備な点を補う対応策に頼ることが多い。そのためにビジョン技術の適用分野は多様化し社会に浸透化してきたが、システムの使用を狭い範囲に限定しなければならぬ現状にある。一方で、機械学習、深層学習に代表される AI 技術の進歩は目覚ましく、ビジョン技術にも適用されて一定の成果も出ているが、上記の課題を解決できたとは言えない状況にある。

本委員会は、2009年11月から2011年10月まで設置した「スマートビジョン協同研究委員会」、2012年1月から2013年12月まで設置した「スマートビジョンの実利用化協同研究委員会」、2014年3月から2016年2月まで設置した「スマートビジョンの適用範囲拡大協同研究委員会」、2016年5月から2018年4月まで設置した「スマートビジョンの多様化協同研究委員会」、2018年5月から2020年まで4月まで設置した「スマートビジョンの社会浸透化協同研究委員会」の成果を踏まえ、目覚ましい発展を遂げた AI 技術をうまく取り入れながら、「気が利いた」「賢い」「利便性が高い」「高いヒューマンインタフェース」などのキーワード、および「より高次に、より容易に使える視覚情報」を一つの考え方に据えてスマートビジョン技術の協同研究を行う。前委員会では、ビジョン技術の社会へ浸透化させる際の問題点や課題について確認し、今後の方向性に関して一定の共通認識を持つことができた。そして、今後更に深く、そして広く発展させていくためにはビジョン技術の AI 技術の応用が不可欠であるという委員全員の意識から、本協同研究委員会の設置に至った。

内外機関における研究活動については、画像処理応用に関する調査専門委員会として、D部門の非整備環境におけるセンシングと AI 技術調査専門委員会があるが、これは画像処理技術そのものあるいは応用の拡大に関する調査研究を中心にしている。一方、本委員会は、ビジョン適用における基本的課題や視覚情報技術またシステム化を念頭において協同研究するものである。

3. 協同研究事項

- ①スマートビジョンの展開
前委員会の成果および AI 技術の応用の可能性について確認
- ②視覚情報技術の問題点、発展性
基本的課題（頑強性、モデル化、カメラ性能など）に対する画像技術とスマートビジョン
- ③AI 技術の応用による高度化視覚システムの展開と社会浸透化に向けた課題解決
展開分野の確認、スマートビジョン適用の課題、など
- ④その他

4. 予想される効果

本委員会は、スマートビジョンの社会への浸透化をはかるための AI 技術の応用について具体的内容を検討していく。これにより体系的に纏められる成果は、ビジョン応用現場への有効なフィードバック情報になることが期待できる。特にこれまで敬遠されてきた撮影対象や環境への適用を開発事項に含めることが可能になる。今後、AI 技術を応用したビジョン技術の社会への浸透化の要求はますます高まることが予想されることから、本委員会の意義と役割は大きいと考えられる。

5. 協同研究期間

2020年5月～2022年4月（2年間）

7. 活動予定

委員会開催 4回/年（東京：2回，その他：2回）

見学会 2回/年

8. 報告形態

研究会，部門大会シンポジウムでの発表

9. 活動収支予算

収入 委員負担金 0円/年

支出 通信費等 0円/年

以上